

第2回 仙台市総合計画審議会議事概要

※この議事概要は、事務局の責任においてとりまとめた速報であり、事後に修正する可能性があります。なお、正式な議事録については、別途ホームページに掲載しますので、そちらをご覧ください。

日 時	平成21年11月20日（金） 18：30～21：10
会 場	仙台市役所 2階 第一委員会室
出席委員	足立委員、阿部一彦委員、阿部初子委員、石川委員、内田委員、江成委員、大草委員、大滝委員、大村委員、岡本委員、小野田委員、菊地委員、佐竹委員、菅井委員、鈴木勇治委員、鈴木由美委員、高野委員、西大立目委員、西澤委員、針生委員、樋口委員、増田委員、間庭委員、水野委員、宮原委員、柳生委員、柳井委員〔27名〕
欠席委員	小松委員、庭野委員、山田委員〔3名〕
仙 台 市	企画市民局長、企画市民局次長、総合政策部長、総合計画課長、総合計画課主幹(2)
次 第	1 開会 2 議事 (1) 起草委員の選出について (2) 新総合計画策定の基本的考え方について (3) 総合計画における都市像について (4) 前回の審議会での要請資料について (5) 新総合計画策定にあたっての意見交換 (6) その他 3 閉会
配付資料	資料1 新総合計画策定の基本的考え方（案） 資料2 本市の総合計画の沿革と都市像 資料3 政令指定都市の基本構想 資料4 宮城県内のNPOの活動状況 資料5 仙台市ホームページ掲載データ等リンク集 資料6 仙台市基本計画（仙台21プラン）における重点事業等の実施状況 資料7 市民の声（平成20年度広聴相談事業年報）（抜粋） 資料8 指標による政令指定都市比較 資料9 指標から見た仙台市の歩み 資料10 新総合計画策定作業マップ 資料11 基本構想策定にあたっての論点（たたき台）

会議の概要

○議事

(1) 起草委員の選出について

- ・起草委員に江成委員、大滝委員、小野田委員、小松委員、西大立目委員、庭野委員、間庭委員及び柳井委員の8名が選出された。

(2) 新総合計画策定の基本的考え方について

- ・事務局から資料1を基に説明を行った。
- ・大枠としては資料1の内容で進め、策定に当たっての基本的な視点を個別にどのように反映していくかは、具体的な話がでてきたときに詰めていくこととした。

<主な意見等>

- ・戦略性のある計画として、優先順位をつけ、市民の理解を得ていくことは、言うは易く行うは難しである。
→総合性が中心にはなると考えるが、より選択と集中ということを意識しながらご議論をいただきたいお願いをこめて記載している。
- ・基本構想レベルでは全体のバランスをみるのが大切で、基本計画の中では戦略的側面を意識してとりかかるといふ扱いはどうか。
→市民や市役所職員にとって、仙台はこういうまちを目指すと言えると望ましいという思いで記載している。しかし、基本構想レベルで選択をしていくことが難しいといふことはそのとおりであり、ご議論の際に戦略性といったものを頭の片隅に置いてご議論いただきたいという程度でお願いしたい。
- ・総合計画審議会は情宣活動とリンクしていないなど戦略性を議論することはシステムの難しい。戦略性は持ったほうが良いが、それを市民に還元するシステムを考えてほしい。
- ・戦略性はすごく大事なことだと思うが、それをどのように、計画を立て、実行のところまで移していくのか、きちんと首尾一貫したものをやっていかないといけない。単に掛け声だけで終わってしまう危険性がある。
→議論の結果を現実のものとして根づかせることが非常に難しいことは理解している。
我々も、これから先、審議会での議論の結果について、市長を先頭に周囲の皆様にご理解を得るため、説明し、納得をいただくような取組をこれから実施していこうと考えているが、限られた時間、期間の中であり、一定の限界はあると思う。
- ・市民への情報提供はあるが、市民の意見はどう吸い上げるのかというシステムについて余り明確に書かれていない。パブリックコメントとかシンポジウムとか幾つか出ているが、その仕組みは、もう少し強い仕組みをつくっておかないと納得していただいたかどうかを確認できない。
→総合計画策定に当たっての市民の参画の形については、審議会でもご示唆をいただきたい。事務局もいろいろなアイデアを考えていきたいと思う。その状況が固まったら説明したい。
- ・多くの基本構想には地区別計画とかがついている。今回の仙台市の基本構想については、

どこか地区を絞って書くのか、各区の計画もこの後につくるのか。

→地区別の計画については、現行、区別の計画をつくっている。今回も、区別の計画を前回と同じような形でつくっていくような想定をしているが、そのあり方も含めて議論いただきたい。

- ・総合計画策定に並行して、いろいろな施策別の計画で策定が進められているものが幾つかある。同時並行で策定が進んでいく計画があると、総合計画の審議で選択する一方で、と具体的な計画でその選択とは違う内容に計画策定が進んだらどうなるのか。

→これまでも、総合計画審議会の議論等を市役所内部で共有することにより、齟齬が生まれないようにしてきた。今回の計画の策定も、市役所内部では策定推進本部をつくり、審議会での議論の紹介をするとともに、市役所内部でも方向性について議論し、市役所すべての部局において共有されているので、齟齬が出てくることは考えにくいと思う。また、スケジュールでは、年度内に基本構想中間案という形、夏ごろには基本計画の中身が大体見えてくることを想定しているので、日ごろからの情報共有と、少しでも早く総合計画の案を示していくことにより対応していきたい。

- ・他の審議会の議論がこの場では分かっていない。その情報がないまま審議が進むおそれがあり、そこが心配である。
- ・計画そのものは逐一反映させる必要はないが、その計画をつくるに至った、各部局での現状把握や将来推計といった資料は、我々の考え方に重大な影響を及ぼすと思う。そういうものが出たら知らせてもらうことを願う。

(3) 総合計画における都市像について

- ・事務局から資料2、資料3を基に仙台市の過去の都市像、政令指定都市の現在の都市像の状況の説明を行った。

<主な意見等>

- ・今回は、約40年先を見据えた基本構想との話であるが、ある意味では道州制もこれから近い将来考えられる中で、40年という長い期間が、基本構想というのがどの程度実行されるものなのかと気になる。

→基本構想の目標年次は、現基本構想が21世紀中葉を掲げている。策定当時から見れば50年後の中の10年をどうするかというような仕立てであった。今の基本構想は、人口減少社会、少子高齢化、地球規模の環境問題等の問題を、腰を据えて考えていくには、長期ではどういった大きな流れがあるのかを踏まえた上で、その大きな社会変化に対応するため、この10年に何をすべきかと考えられたものではないかと思う。今回の新しい総合計画でも同じように考え、基本構想については21世紀中葉、計画については10年間という目標期間の設定としている。

- ・基本構想は、長期的で総合的な視野に立って、おおよその目標を立てるもの。余り目標年次が近いと、立てにくくなることも生じると思う。それに対し、目標に向かい、この10年なら10年、何からどう実施していくかを定めるのが基本計画。したがって、かなり具体的な内容が入るので、長くすることはなかなか難しい。目標にしているものと現実をどうつ

なぐか、そのつなぎ目の当初の10年を基本計画というので定めようということであり良いのではないか。

(4) 前回の審議会での要請資料について

- ・事務局から前回審議会では要請のあった資料4～9の説明を行った。

(5) 新総合計画策定にあたっての意見交換

- ・事務局から資料10、11を説明し、その後、委員での意見交換を行った。

<主な意見等>

- ・大学と起業との連携を強くする施策と大卒者が東京に流出していくのを食い止める施策とを、軌を一にして行う取組ができると良い。
- ・高齢化をポジティブに考え、高齢者の活力を引き出す、高齢化に合わせた人の活用の仕方の工夫が必要。
- ・これからの国際化は、仙台に外国人や外資系企業が来たり、仙台に住んでいた人が海外に移ったりするなど、人の動きが活発になる。経済的に活力を取り込む施策を考えていくと良い。
- ・コンパクトシティを本気で考える必要がある。公共施設が大きく外に伸びると、老朽化したときに維持管理にお金がかかる。都市構造ではこういうことをきちんと考える必要あり。
- ・昔は田舎では共同作業が当たり前のように行われていた。今は、特に転入者を中心に、都市部では協力が得られないというより、無関心の方が多い。「市民の力」とあるが、実際に「力」にすることはすごく難しい。「力」になる仕組みをつくる必要がある。
- ・コンパクトシティの推進だけでは、中心市街地と郊外住宅地・農村との対立が生まれてしまう。郊外・農村部に住むメリットを明確に提示し、意識を変えていくことも必要。
- ・高齢者は能力を持った方が多く、スポーツや健康にお金をかける余裕がある方も多い。その意味で高齢化は、悪いことだけではないと考える。
- ・現実には厳しいとしても、先に向かつての構想なので、市民に分かりやすく明るい希望がもてるものを記載していくべき。
- ・地域のつながりは仙台市の誇れるもの。維持し、より力が発揮できる仕組みをつくるのが非常に大事。
- ・環境意識の高い市民が多い。この特長を最大限発揮できる計画とすべき。
- ・大学生、専門学校生など20歳前後の方が多いのは仙台の財産。学生とつながることができること自体が非常に大事。若い人も力を発揮でき、そのときのことを振り返り、いずれ仙台に戻ってくることも考えるようなまちづくりが必要。
- ・仙台がもつ優れた自然環境も特筆すべきこと。これを守ってきた市民の力・行政の力を評価することは重要。
- ・環境との関係では仙台の持っている自然の資源を生かすことは持続可能性を高めていく上で非常に重要。これから、それを具体化して取り組んでいくことが必要。
- ・市民が夢をもって生活していくための条件を考えた場合、財政面は無視できない。厳しい

というだけでなく、新たな税収確保の施策も長期的な視野に立って具体的に進めていく必要がある。

- ・働く女性が増えている中で、女性の働き方も多様化している。子育てと仕事の両立が確保できるような環境を整えていかないといけない。そのことが、少子化のストップにも働くと思う。
- ・農地や山などの自然があつてこそ、仙台市が将来も健全に進展できると思う。農業生産が持続的にできる都市と農業が位置づけられると良い。
- ・都市間競争ではなく、これからは都市間共生をどう図って生きていくか。都市同士でプラスもマイナスも分け合っていないと。
- ・例えば、車椅子の方が街に出て行く活動が40年前から始まり、学生も参加した中で大きな成果を挙げた。そのような事も市民の一人一人に知っていただき、更に市民の力を引き出すようにすべき。
- ・日本は、急速な高度経済成長を経て、家庭の孤立化が進んだが、それに社会が対応できていない。そして、税と社会福祉による是正の結果、子供をかかえる世帯から高齢者世帯にお金の流れ、格差が拡大するという、先進国では特殊な形になっている。その結果、孤立した、児童虐待やDV問題などを抱える家庭が増えている。孤立し、ストレスのかかった親の虐待はエスカレートするので、経済的支援だけでなく、孤立しているところに具体的な援助の手を入れる必要がある。行政で行うのに財源が確保できないのであれば、地域コミュニティを生かして救出する設計ができないかと思う。
- ・これまでは、市の決めたことに協力してもらう、市民の声を市政に生かすことを「市民協働」と定義していたと思うが、これからは市民が政策づくりにいかにかかわるか、戦略的な協働がもっと求められる。また、市民活動の現場を知らない職員が多いことに危機感を抱いている。市民と一緒に汗をかき、知恵を出す風土を市役所につくることも重要。
- ・地場産業のイノベーション、地場産業と周辺産業のコラボレーションが非常に重要。一方では、地域課題解決型のビジネスを考え方として取り入れ、多様な産業主体が地域の経済を支えていくという流れとすべき。
- ・将来、子供達が仙台は暮らしやすいという思いを持つには、働く場や、スポーツ・文化等の魅力が必要。そのためには子供たちが仙台の歴史や文化や自然や風土などを知ることが必要。
- ・行政以外に市民と企業ということが語られているが、「市民」とは一体誰のことをいうのか鮮明にしておく必要がある。また、「企業」という場合にもその概念を鮮明にしておかないと、まちづくりのパートナーシップとか担い手といった場合に漠然とした捉え方になってしまう。
- ・市民の皆さんにも意見を聴いて、計画づくりに参加できる機会をつくってはどうか。
→意見を聴くことについては全市民を対象に市政だよりで実施したい。
- ・財政的にできないことも出てくると思うので、市民に言いにくいことも基本構想の中に表現として入れておいたほうがいい。
- ・多くのもの言わぬ市民が安心して子どもを育てていける環境をどうつくっていったら良い

のかというのが自然と享受できるような計画にしていきたい。

- ・生活の中で、仙台発祥のものや自然を含めた様々な資源を自然に知ることができ、普通に生活することで、普通に仙台を愛していくことができるようになるとうい。
- ・仙台は転勤族が多いので、地域を学ぶことができなかった人がある。自然に知る機会がなかったという点は自分だけではなく周りの人も感じている。
- ・市民に意見を聴くときに子供達にも意見を聴いたほうが良い。それは、子供から意見を聴きたいというよりも、子供達が仙台の持つ資源や課題などを小さなときから知ることができれば、もっと、こうしようとか、こういうことができるのではないかと、意識が芽生えるのではないかと。
- ・(議論の中に) 国がやるべきことと市の施策が混在している。国が制度を変えないとできないこともかなり含まれている。その中で市がどこまでできるかという議論があると思う。
- ・前回の基本計画でできていないことも多く、そのほとんどが経済。おそらくマーケットとどう向き合うかは自治体だけではできないことだからではないか。自治体だけではできないこととどう総合計画がリンクすべきなのか。どんなに意見をまとめても解決できないことだと思うので、検討が必要。
- ・競争社会からの脱却は生活者としてはそう思うが、大学人としては向き合わないといけない状況。清華大学などがものすごい設備投資を行っており、今日本の大学は優位だが5～10年経つと状況が変わる。すると世界を飛び回っている富が仙台という都市を素通りするという状態が考えられる。大学人としてはそれとどう立ち向かっていくかという戦略を持たざるを得ない。市もその運営ということを考えて何らかの戦略が必要。
- ・町内会やNPOのような中間集団を活性化していくことによって実効力のあるものにできるのではないかと。学校とか町内会とかNPOとかをどう活用するのかという具体的なアイデアを少し盛り込んだほうがよいが、そうするとこの施策もとなるので、どうテーマづけて施策をあげるかというあたりを検討する必要がある。
- ・いくらここで議論しても市民の支援を受けなければ何の意味もない。戦略性をもつ、選抜するというのは、市民の支援を受けにくい危険性もある。それをどう市民に還していくか事務局に真剣に考えてほしい。
- ・環境問題については、最低でも100年、大きく考えれば1,000年という形で議論しなければならない。環境は私達の暮らしに関わっているが、すぐ目の前に差し迫った問題ととらえにくい点もある。20世紀中葉までの計画の中に、大きな目で見えた環境というものを盛り込むべき。
- ・町内会は力があるので、市と一緒に取り組むというものと、安心な暮らしに寄与していくと思うし、仙台というまちがもっとグレードアップしていくのでは。
- ・東北との関係について、仙台がやってやっているという意識を捨て、一緒にやるということ。他の都市はできないけれども仙台はやれるのでやりますからそれを使ってくださいという視点での取組が必要。
- ・物語のある計画にしたほうがよい。どんな仙台市民を求めるのかとか、こんな仙台市になるからこういう人達と一緒に暮らそうねとか、そういうストーリーが出てくるとよいので

はないか。

- ・現状とニーズが違うのでそういうものも吸い上げて改善できるようなシステムができると良い。
- ・分科会を設置し様々な分野の意見を言い合い、そこからみんなの意見を作り出すことができれば良いと思う。
- ・地下鉄東西線の沿線のまちづくりについて、各駅で特色を生かしつつ、どのように進めていくかということは仙台市の街全体を考えるには大事なことなので、そのことも考慮に入れながら進めていきたい。
- ・人口減とか少子高齢化とか今まで経験したことがないような時代になっていくが、身近な生活の中で仙台市民として新しい時代をどう生きていったらいいのか、分かりやすい言葉で市民の意識を導いていくようなものにしていきたい。